

Top Message	環境本部長インタビュー	特集 Human Centric Intelligent Society	第7期富士通グループ環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編	
事業所における温室効果ガス(GHG)排出量の削減・エネルギー効率の改善	環境配慮データセンターの推進	物流・輸送時のCO ₂ 排出量削減	お取引先のCO ₂ 排出量削減の推進	再生可能エネルギー利用量の拡大	水資源の有効利用	化学物質排出量の抑制	廃棄物排出量の抑制	製品のリサイクル

水資源の有効利用

富士通グループのアプローチ

気候変動や森林破壊、新興国・途上国の人口増加や経済成長などに伴い、世界的な水不足リスクが拡大しています。企業にとっても、水不足はビジネス継続に影響を及ぼしかねないリスクであり、水の使用量削減や再利用が重要な課題となっています。

富士通グループでは、とりわけ半導体やプリント基板の製造において水を大量に使用することから、特にそれらの水使用量の削減が必要と考えています。これまでも各工場において、節水はもとより純水リサイクルや雨水利用をはじめとする水の循環利用・再利用に継続的に取り組んできました。2013年度からは水資源の有効利用を新たに目標に掲げ、これまで以上に取り組みを強化しています。

2014年度の実績サマリー

第7期環境
行動計画の
目標
(2015年度末まで)

水の再利用や節水

など、水資源の有効利用を継続する。

2014年度
実績

水使用量 **1,660** 万m³

10.8% 減 (2013年度比)

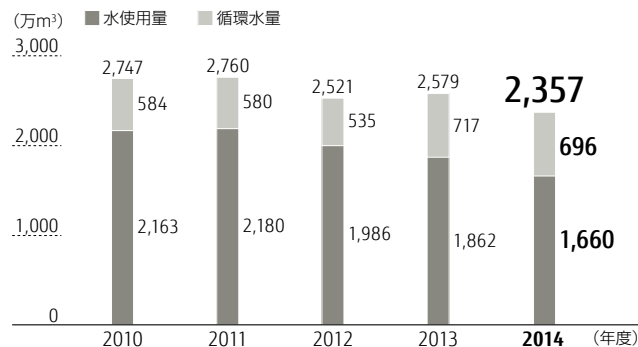
2014年度の実績・成果

水使用量は2013年度から10.8%減

2014年度の水使用量は1,660万m³(売上高当たりの原単位:349m³/億円)であり、2013年度に比べて10.8%減となりました。水使用量に対する循環水量の割合は41.9%であり、水の有効利用に大いに貢献しています。

各サイトでは独自に水使用量削減の目標を設定して取り組んでいます。例えばオーストラリアのノーブルパークデータセンターでは、2014年度に水使用量5%(250m³)削減を掲げ推進した結果、23%(1,180m³)削減を達成しました。

水使用量および循環水量の推移



TOPICS オートマチックフィルター導入による水の削減

富士通長野工場では、プリント基板製造工程から排出される酸・アルカリ系の排ガスを「スクラバー」と呼ばれる排ガス処理設備を用いて水による噴霧洗浄処理を行っています。

噴霧水はスクラバー内部で循環しており、このため排ガス中の有機物や一般細菌によってスライム(細菌類)が繁殖し、汚染されています。従来はこれらを原因とするスクラバーの目詰まりによる処理能力低下を引き起こすことを防ぐため、多量の水を排水するとともに、新規に水を投入する必要がありました。

今回導入したオートマチックフィルターは全自動で循環水のスライムを除去することが可能となり大幅な水の使用量、排水量の削減を実現できました。

2014年12月から現在、1号機・2号機の運用が開始され、水の削減効果が出ています。今後は、3号機の導入によりさらなる水の削減を目指します。



スクラバー循環水洗浄装置

スクラバー循環水洗浄装置導入による水削減効果

内容	削減量
水の削減	3,460m ³ /年(注)

(注)1号機・2号機の合計。

2015年度の目標・計画

継続目標の達成を目指す

第7期環境行動計画目標「水の再利用や節水など、水資源の有効利用を継続する」を推進するため、2014年度に引き続き各工場の一つひとつ施策を積み重ねながら、さらなる水資源の有効活用に取り組みます。